

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

平成13年12月20日

関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察注意報第3号を送付します。

平成13年度病害虫発生予察注意報第3号

平成13年12月20日

高知県病害虫防除所

病害虫名 うどんこ病(Oidiopsis sicula Scaia)

1. 対象作物 促成ピーマン、シシトウ
2. 発生地域 県内全域
3. 発生時期 10月以降
4. 発生程度 多
5. 注意報発令の根拠
 - 1) 10月～12月に行った現地ほ場における促成ピーマン、シシトウ病害虫発生予察巡回調査では、県内全域においてうどんこ病の発生面積率、発病度とも平年値よりかなり高くなっている。また、10月から12月にかけて県内全域でうどんこ病の病勢は進展傾向にある(第1表)。
 - 2) 今後1ヶ月の長期予報(平成13年12月14日、高松地方气象台発表)では降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている(第2表)。また、3ヶ月予報(平成13年11月20日、高松地方气象台発表)でも12～2月の天候見通しは『平年と同様に晴れる日が多い』見込みである。従って、今後うどんこ病の病勢が衰える要因は少ないと思われる。
6. 防除対策
 - 1) ピーマン、シシトウのうどんこ病菌は他の作物のうどんこ病菌とは異なり、内部寄生性のため菌糸は葉面上には現われない。したがって、病徴が不明瞭で発生初期に見つけにくく、同時に薬剤の効果が発現しにくいので、早期発見、早期防除に努める。
 - 2) 菌の侵入発病の適温は15～28℃、最適温度は25℃で、やや乾燥した条件が発病に適する。この環境はハウスピーマンの栽培環境ともほぼ一致するため、特に3月以降多発する傾向にある。したがって、基本的な対策として育苗期から防除を徹底し、本ほへの病苗の持込みを極力防止して発生軽減をはかる。
 - 3) 現在、ピーマン、シシトウうどんこ病の薬剤耐性菌の報告はないものの、同一薬剤の連用により耐性菌を生じるおそれがあるので、注意する。

4) 防除薬剤は県の病害虫防除指針に従う。

第1表 促成ピーマン、シシトウのうどんこ病発生面積率(%)、発病度

		10月		11月		12月		10~12月平均	
		面積率	発病度	面積率	発病度	面積率	発病度	面積率	発病度
東 部	本年	30	0.2	70	3.0	100	6.1	67	3.1
	平年	0	0.0	6	0.3	11	0.6	6	0.3
中央部	本年	30	1.5	50	5.2	50	10.3	43	5.7
	平年	6	0.2	22	0.8	36	1.9	21	1.0
中西部	本年	25	1.9	88	7.1	88	7.8	67	5.6
	平年	8	2.7	20	3.4	32	3.3	20	3.1
県内 平均	本年	28	1.2	69	5.1	79	8.1	59	4.8
	平年	5	1.0	16	1.5	26	1.9	16	1.5

注) 平年は過去10年間(1991~2000年)の平均値。

第2表 1ヶ月の気象予報(12月15日から1月14日までの天候見通し)

要素	地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	四国地方	50%	30%	20%
降水量		50%	30%	20%
日照時間		20%	30%	50%

注) 平成13年12月14日に高松气象台より発表。